

12月1日、今日は最後の砦(?)、奥にあるスチールの机。引出の中にあるものを要・不要に分けて片付ける。名簿類がたくさんある。郵便局から送られた振込記録の空の封筒や、発送宛名用ラベル用紙入れと思われるビニールの袋も多い。再利用しようと捨てずにとってあった気心が見える。「たより」を送ってくださいという手紙など、多くの人たちの思いの詰まった引出だ。机の上で広沢さんがにこやかに見つめている。

このようにセンターは40年近いヨコスカの運動の継続の力、心が溢れた記録(あえて歴史とはいわない)の宝庫だ。

ちなみに机の中から見つけたものに、「ニッキー・ハーガー、6年ぶりの再会」という古い「たより」の1ページがある。何号かはまだ不明。メモ用紙に使ったものだ。思わず読みいってしまう。びっくりした。最後に「通訳は山鹿さん」とあるではないか。なぜかその記憶が全くないのだ。

このセンターの片付けをしたと思ったのは、1月から2回目の「住民投票を成功させる会」の事務所の手伝いをさせてもらい、5月に議会で直接請求は再度否決されたものの大同団結のうねりは続くことを確認し、もうひとつの「ふるさと」松之山小谷に行った時だ。

知ってはいたが「今日が最後です」という「成功させる会」の事務所引越しのメールをもらった時、あー、帰る場がなくなったなどという思いに襲われた。そして今後ヨコスカとどう関わるかを雑草と土と戯れながら考えた。そしてセンターがあるのではないかと思ったのだ。

「成功させる会」は事務所があったことで、そこでは事務的なことや会議だけでなく、人が訪ねてきた。顔を合わせることで人と人とのつながりができる。その「場」とは「広場」でもあり、人と人との交流の「場」になりうる。これは運動にとって大事なことだと思う。

もう一つセンターは先にも書いたように長く継続した運動の記録、資料の宝庫だ。全国で市民運動・住民運動は数多く生まれてきたが、これほど長く現存する事務所を維持している運動は日本広しといえどないのではないか。

GWが来てしまい、日米軍事再編が進む中、この場を活用しない法はない。など、など大きなことをいうようだが、「帰る場」が欲しかったというのが本音だ。



懐かしき ガリ版刷りの 第1号 母港化許さぬ 文字おどる

「JOIN US」 No.1、1973年10月2日

センター片付け記 山鹿順子

さて、実際の片付けは9月初旬から始まった。片付け班長はおむすび丸船長の市川平さん。幸い(?)仕事と仕事の合間にあった平さんにはこの作業は始まらなかったし、終わらない。古い冷蔵庫など大型のものを運び出し(また新しく入れ)、山のようなごみを廃棄する平さんの初期

作業により、見えなかった床の畳が雪解けのように少しずつ見え出したときは感激した。センターには広沢さんが亡くなった後、アパートから運び込まれたものも多かった。広沢さんが愛していた、しかしもうとっくに死んでしまったネコの餌、就職申込みに対する断り状などを見たときはとても切なかった。

でも10月26日の命日に、定例デモ後、まだものの溢れる中ではあったが、一言ずつ広沢さんへの思いを述べるために19人も大勢の人

緒に飲みたかったな、などと思いつつ。

まだまだ片付けは続く。とりえず箱に詰めたままのもの、棚に押し込んだものなど多くある。わたしにとってセンターの片付けは宝探しのようなもの。すぐ終わって欲しくない(新しい職場に就いた平さんは早く切りをつけて終わらせたい)。もう少し整理できたら「たより」を1号から通して読むのが楽しみだ。

そしてそんな中に人が訪ねてきてくださり、お茶を飲みながら話しあえたら、さらにセンターを基盤にヨコスカだけでなく、国内外の人たち・グループとの交流・情報交換の場になればと山鹿順子の夢は果てしない。そういう場を与えて下さる非核市民宣言運動のみなさん、ほんとうにありがとうございます。

蛇足:センターを片付けていることで、山鹿順子はきれい好き、片付け魔と思われるとしたらそれは大間違いです。余命少なくなった今のうちに身辺整理をしなければと、この10年間自宅の片付けを毎年思い続けていますが、まだ果たせていません。どなたか手伝ってくださる方がおられたら大歓迎です。

もう1点、1年前から糸の切れた凧になり、「自由」の身になったのはいいのですが、生来癒け者のわたしにとって、「自由」はある意味で「不自由」、優先事項であるはずの自宅の片付けさえできていません。ある程度決まった「お仕事」があることで、そのままでしたら何もせずに毎日をポーっと過ごし、ボケが進行するのを少しでも遅らせるという効用がセンター通いにはあると思っています。ですからセンターの片付けは「自分の場が欲しい」ということと「ボケ進行遅延」という非常に個人的な欲求により行っていることで、それを助けてくださっていることについても大感謝です。

きれいに片付いたセンターで、2m×1mの大きなパネルを作った。こんな作業がセンターでできるなんて、ほんと、夢のようです。ありがとうございます。山鹿さん。平さん。

「たより」(96) (2008.12.10)

が入って、集まれたことは信じられなかった。広沢さんへのたむけになっただろうか。それとも「ぼくの場」ではなくなったと恨んでいるだろうか。

この間片付けをしながらいつも広沢さんがいた。ネコの話しが一緒にしたかったな、お酒を一